

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666

FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

「100人の1歩」が強い会社を生む 服部 哲也（サミット社長）

1. スーパーマーケットというと、食品を売っているイメージがあると思いますが、我々にとっての商品はお店自体です。お客様には、お店を買っていただいている。お店のファンが増えれば、おのずと売り上げも伸びるといえる考え方です。だから、サミットでは販売している食品はもちろんのこと、サービスや接客、イベント、もっと言えばお店のつくりやデザイン、雰囲気も含めたトータルパッケージで魅力を高めようとしています。
2. そのために、社員一人ひとりが、自分で考えて行動する。同じ仕事をするのでも、自分なりに創意工夫し、自分の個性を少しでも生かそうという気持ちが芽生えるだけで、出来栄は変わります。たとえ1個1個の行動は小さくても、サミットに勤める従業員1万人以上が取り組めば、総和はものすごく大きくなります。まさに日本電産の永守重信さんの名言「1人の100歩より、100人の1歩」です。
3. スーパーマーケットは正直なところ、あまり華やかな業界ではないかもしれませんが、でも、みんなの力を結集すれば、働きたい会社は必ずつくれる。「日本のスーパーマーケットを楽しくする」を事業ビジョンに掲げる以上は、社員も楽しまなければ始まりません。会社を良くしたいという思いを持った社員が取り組みを1つずつ積み重ねていけば、真に強い会社になれます。

(参考:「日経ビジネス」2021年11月1日号)

経営者のための危機管理

トヨタを襲う「新・六重苦」

1. CO₂削減の苦しみ……ガソリン車から電気自動車（EV）への転換コストが激増。
2. 経済安保の苦しみ……欧米中が基幹部品を囲い込んでいる。すでに半導体不足で自動車が大減産を迫られている。
3. 国内生産崩壊の苦しみ……①工場電力料金の高騰、②素材・部品価格の高騰、③国内サプライヤーの悲鳴。
4. 輸出競争力「低下」の苦しみ……①欧州連合（EU）が国境炭素税で海外製品を排除、②輸送コストの高騰。
5. 産業政策ゼロの苦しみ……日本のグリーンイノベーション基金は2兆円。予算規模が欧州、米国とは2桁違う。
6. ゲームチェンジの苦しみ……①ハイブリッド車が強過ぎた日本の自動車メーカーはEVで出遅れ。②EVシフトにより車の機構がシンプルに。かつての電機業界のように水平分業が加速。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2021年11月6日号)

ワンポイント経営アドバイス

「そろそろ、NO.1を入れ替えよう」(ファミマ)

1. 「そろそろNo.1を入れ替えよう」。コンビニ国内大手のファミリーマートが、そう銘打った広告を都内の渋谷駅に掲げた。コンビニ業界でナンバーワンの存在といえばセブンイレブン。広告では名指ししていないものの、ファミマがセブンに挑戦状をたたきつけた格好だ。2020年10月にファミマの初代CMO（最高マーケティング責任者）に就任したのが足立光氏だ。
2. 足立氏は「マーケティングのプロ」として著名な人物。日本マクドナルドの業績回復の立役者の一人として知られる。今回の刷新を機に、売上高に占めるPB（プライベートブランド）比率を現在の30%から24年度までに35%以上まで引き上げる。わずか5ポイントともいえるが、ファミマとして大きな変化になりそうだ。

(参考:「週刊東洋経済」2021年11月20日号)

古典に学ぶ

事変は好機である

(解説) また一方にはこの事変は大いに乗ぜざるべからざる好機と思う。今日我が実業家は目前の不景気に畏縮するようであるけれども、それははなはだ無気力の行為である。ただその著目を誤らぬようにして戦中十分なる研究を積み、漸次実物の効果のあるように務めて行きたいのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)